

第6回検討部会及び書面確認における主な委員意見と対応（案）

資料2

項目	意見番号	委員意見		対応（案）
観光・水辺のまちづくり検討資料	1	玉井委員	<ul style="list-style-type: none"> クルーズについて、他港との役割分担や到着後の乗客輸送、背後・周辺エリアとの連携が重要である。 	全体の取りまとめにおいて記述に留意していく
	2		<ul style="list-style-type: none"> 舟運における海・川・まちの繋がりや、観光と環境の調和等については、関係機関と連携して取り組んでいくことが重要である。 	
	3	中村委員	<ul style="list-style-type: none"> 背後の民間開発と公園が隣接している場合、双方で取組を行うなど連携することにより、相乗効果を生み出せると良い。 	
	4	柴崎委員	<ul style="list-style-type: none"> 「舟運」という言葉は物流寄りのイメージなので、旅客を中心とする場合は「水上交通」とした方が一般には分かりやすいのではないかと。 	
	5	多田委員	<ul style="list-style-type: none"> 舟運の活用などにより、海側からの視点で東京港を知ることは、海の理解や観光促進に繋がるのではないかと。 	
	6	松田委員	<ul style="list-style-type: none"> 観光においては、観光資源の集積や交通網の整備、施設のデザインが重要である。 	
	7	中村委員	<ul style="list-style-type: none"> 土木遺構は、景観のみならず、観光や地域資源など広い捉え方をした方が良い。 	全体の取りまとめにおいて土木遺構等を地域資源として活用することを記述していく
	8	河合委員	<ul style="list-style-type: none"> 土木遺構は、学校教育など一般の方々にも見えるようにした方が良い。 	
	9	柴崎委員	<ul style="list-style-type: none"> コンテナターミナル等を見学できる施設や機会があってもいいのではないかと。 	
	10	根本部会長	<ul style="list-style-type: none"> 東京港は、海と川が繋がる好立地に加え、土木遺構やコンテナ船が見られるなど、良い現場を持っているので、これを活かせる検討を進めていくべきである。 	

第6回検討部会及び書面確認における主な委員意見と対応（案）

項目	意見番号	委員意見		対応（案）
環境 検討資料	11	水庭委員	<ul style="list-style-type: none"> 水質や生物の生息環境などのモニタリングを行い、数値で表すなど取組の効果を評価していくべきある。 	全体の取りまとめにおいて記述に留意していく
	12	吉江委員	<ul style="list-style-type: none"> モニタリングにIoT技術を活用するなど、DXの取組を推進していくべきである。 	
土地利用 ゾーニング	13	柴崎委員	<ul style="list-style-type: none"> 長期構想なので、利用ニーズに合っていないところを変えていくという視点があっても良い。 	全体の取りまとめにおいて関連計画との整合等について記述していく
	14	玉井委員	<ul style="list-style-type: none"> 都市機能の各地区の計画と整合を図った上で、港湾の計画を考えていくべきである。 	
	15	松田委員	<ul style="list-style-type: none"> ゾーニングを考える際には、海側からの視点に加えて、陸側も含めた機能の集積や利用者の動線等を踏まえ、魅力の向上を図っていくべきである。 	
検証の仕組み	16	吉江委員	<ul style="list-style-type: none"> P D C Aでは、大きな変化に対応しにくいなどの課題があるのではないか。 	第6回検討部会資料 資料4-4のとおりとする
	17	柴崎委員	<ul style="list-style-type: none"> P D C Aにおいて、変化に柔軟に対応していくという趣旨であれば、この記載でも間違いではないのではないか。 	
	18	根本部会長	<ul style="list-style-type: none"> 長期構想を策定した後、港湾計画をローリングし大きな状況変化があれば長期構想もローリングしていくので、目標を固定的に捉えているわけではないと考える。 	

第6回検討部会及び書面確認における主な委員意見と対応（案）

項目	意見番号	委員意見		対応（案）
骨子素案 防災・維持管理	19	河合委員	<ul style="list-style-type: none"> 発災時における船舶の走錨・衝突等リスク低減策の強化について、「発災時」ではなく「暴風時」とした方が良い。 	全体の取りまとめにおいて記述に留意していく
	20		<ul style="list-style-type: none"> I C T等を活用した情報共有及び発信について、何の情報なのか記載した方が良い。 	
	21		<ul style="list-style-type: none"> ガイドライン等に基づく関係機関との連携による特定外来生物、新型感染症に対する水際対策の強化について、どこガイドラインなのかを記載した方が良い。 	
骨子素案 環境	22	水庭委員	<ul style="list-style-type: none"> 水辺に顔を向けたまちづくりについて、水辺と陸側の両方から楽しめるイメージにした方が良い。 	
	23		<ul style="list-style-type: none"> 水質や生物等のモニタリングに関する内容を追加した方が良い。 	
	24	松川委員	<ul style="list-style-type: none"> 環境意識の高まりにより、港の優位性比較に脱炭素化に関連した新たな評価基準が加わることになるので、これを踏まえて施策を進めていくことが重要である。 	